

長野県阿智村		●活動名 阿智村 小中学校コミュニティ・スクール			●関係する学校名 阿智村立阿智中学校 阿智村立阿智第一小学校 阿智村立阿智第二小学校 阿智村立阿智第三小学校 阿智村立浪合小学校 阿智村立清内路小学校	
協働活動開始年度	平成 30 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日指定	地域学校協働本部	有	
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾		放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	1人		6人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	有	
	55人					
参考URL	https://www.vill.achi.lg.jp/					
●連絡先	阿智村教育委員会学校教育係			☎ 0265-45-1231		



●活動の概要・経緯
以前から村内の数校を対象とした「放課後学習教室」や、浪合地区では「放課後子ども教室」が実践されていたが、村内の5小学校・1中学校を繋ぐ核となる活動は十分ではなかった。そこで、平成31年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第47条5)」に基づく「学校運営協議会」を村内全校に設置、コミュニティ・スクールに指定した。従来、各校で取り組んできた活動を大切にしつつ、コミュニティ・スクール指定を一つの機会として、子どもたちに「確かな学力を身に付けること」を基盤に「未来を切り拓く逞しい成長」を願って、地域の理解と協力の下、中学生を対象とした公営学習塾「若駒アカデミー」、高学年児童を対象とした「放課後学習教室」の整備を進めた。また、地域の「ひと・こと・もの」を題材とした質の高いふるさと学習の実現、中山間地小規模校のハンディキャップを克服し、より充実した教育活動・学校運営の在り方を研究・検討する活動にも取り組み始めた。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】**
- ・「未来を切り拓く逞しい成長」の基盤に「確かな学力の獲得」を据え、地域・学校でこの価値観が共有できるよう取り組んでいる。
 - ・学力の3つの側面(知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう力・人間性)をバランスよく育てるには、授業改善は勿論であるが、児童生徒が主体的・自立的に学習する場も必要と考え、地域の協力を得ながら、「放課後学習教室(小)」・「公営学習塾「若駒アカデミー」(中)」の実践を進めた。
 - ・地域・学校の関係者からなる「ふるさと学習カリキュラム作成委員会」を組織し、小中9年間のふるさと学習を通して付ける力を具体化し、地域のひと・こと・ものに深く関わる実践を積み重ねている。地域の人々を招いた「ふるさと学習発表会」を開催し、実践集も発刊した。また、「小規模校学校課題研究委員会」も立ち上げ、中山間地小規模校における学校教育・学校運営の在り方を”地域・学校の協働”の視点を大切に研究している。
- 【実施に当たっての工夫】**
- ・上記の活動がそれぞれ繋がった活動となるよう地域コーディネートの役割を教育委員会事務局の学校教育専門主事が務めている。
 - ・どの活動も「地域の理解と支援」が鍵となる。関係者連絡会議や委員会では、地域の声が反映されるような運営や委員の人選に努めている。また、主にふるさと学習では、学習支援者の登録(阿智村版人材バンク)活動を進め、現在55名の登録者がいる。
- 【関係機関・団体等との連携状況】**
- ・地域関係者へのアンケート等による活動の成果や課題の洗い出しを大切にし、それを翌年の活動計画に生かすようにしている。また、良い活動例などを資料として関係機関・関係者へ配布し(必要に応じ視察も実施)、関係者の意識が高まるように工夫している。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・学校教育の具体的な内容や児童生徒の成長に関心を持つ地域の方々が増えている。特に少子高齢化やAI技術の急速な進歩により、今後の社会が見通せない状況となっているが、だからこそ児童生徒と地域の「これから」を考えたいとする見方が生まれている。
- ・地域関係者の中に、学力の向上、ふるさと学習、小規模校学校課題研究のいずれもが児童生徒の成長と今後の地域社会にとって大切な課題であるとの認識が広がっている。

●その他

- ・支援者・関係者の高齢化等による人材不足・持続可能性も今後懸念される。そうした課題をICT機器等の活用でどのように補えるか、検討課題である。



若駒アカデミー(中三)
(国語の授業)



小規模校学校課題研究委員会
(校長の話を聞く委員)